



2009年4月4～5日 全日本フォーミュラニッポン 第1戦 参加台数13台
サーキット 富士スピードウェイ

今シーズンのフォーミュラニッポンの開幕戦が富士スピードウェイで行われました。今年からレースウィークが2Dayとなった為、金曜日の走行がなくなり土曜日からレースが始まることになりました。土曜日の午前中の公式練習ではマシンのセットを試しました。走行ごとにマシンのフィーリングもよくなっていき予選へと臨んでいきました。

予選・・・/11位

予選はノックアウト方式が採用され1セッションごとに下位のマシンが脱落していくルールでした。

Q1

まず20分間のQ1に臨みました。今回はルール上練習で使ったタイヤを使うことが出来なかったためチームの戦略としてコンディションがよくなるまで待機し、最後の数分でNEWタイヤを使いアタックに入る作戦でした。残り8分を過ぎたあたりでコースイン。タイヤを温めていきました。タイヤの1番いいところはコースインしてから3周目なので、それまでに温められるよう注意しアタックに入っていました。公式練習からセッティングを変更しマシンはよくなっていたのですが、その分自分のブレーキングでうまくタイムを削ることが出来ずセクタータイムもまとめることが出来ませんでした。それでも、ギリギリQ2進出の11番手のタイムを出すことが出来ました。

Q2

続いて10分間のQ2に臨みました。今回も時間の最後にタイムが出るように待機してからコースインしました。Q1のフィーリングを元にマシンのセットアップを施し再びアタックに入りました。先ほどのブレーキングがもっとよくなったのでその分タイムが削れるように集中していきました。1コーナーはうまくいったのですが、その後のAコーナー、100Rでスピードを乗せることが出来ずタイムをロスしてしまいました。結果Q1から少しですがタイムアップしたのですが順位変わらずQ3に進むことが出来ませんでした。

決勝・・・/6位

予選が終わってからチームとレースに向けてミーティングをしました。決勝レースに向けてチームが5日の午前に行われたフリー走行でガソリンの搭載量などレースと同じ条件でマシンを走らせました。最初にスタート練習、そして、最初のスティントのシミュレーション。ピットに戻りピット作業をして2回目のスティントのシミュレーション。最後にもう1度ピット作業を行いフリー走行を終えました。予選が終わってからチームとレースに向けてミーティングをしました。決勝レースに向けてチームがさらにいいセッティングを施してくれましたので前日よりマシンのフィーリングがよくなり、タイムも3番手タイムを出すことが出来ました。

そして、55週のレースに臨みました。フォーメーションラップでタイヤをよく温めグリッドに戻りスタートに備えました。シグナルが変わりスタートしたときに1台が遅れたためポジションを1つあげて1コーナーに入っていました。今年のマシンで集団の中を走るのが初めてだったのと燃料がたくさん搭載しているマシンのコントロールがうまく行かず序盤に順位を12番手まで下げてしま

天候・・・晴れ



いました。しかし、すぐにポジションを1つ戻しマシンのコントロールに集中して周回を重ねました。序盤はマシンのコントロールがうまく行かずタイムも安定させることが出来ませんでした。前をいく37号車との差も開いてしまいましたが、周回を重ねるごとにマシンの動きがよくなってから徐々にペースを上げることが出来ました。作戦ではレースの折り返し以上周回を重ねるためガソリンが軽くなるにつれてタイムも出せるように走りました。何度か自分のミスで大きくタイムをロスさせてしまいました。そして、35周を消化したときにピットイン、タイヤ交換と給油に向かいました。チームの素晴らしいピット作業でミスもなくピットアウトしたときには37号車の前に出ることに成功しました。しかし、まだタイヤが温まっていないためすぐに先行を許してしまいました。

その後、タイヤが温まってからは自分のベストタイムを出しながら前に行くマシンを追いました。残り5週の時点でオーバーテイクボタンが3つ残っていたのでストレートで少しでも差を詰められるように使用していきました。最終ラップに入り100Rの出口で37号車がミス。その隙を突いてヘアピンでアウトにマシンを寄せて立ち上がり重視で曲がりました。続くダンロップコーナーの侵入では37号車がイン側をキープしていたのでアウト側にマシンを寄せもう1度立ち上がりで勝負できるようコーナーを曲がりました。そして、13コーナーの入口でインに飛び込み6番手に浮上。そのままチェッカーを受けました。

始めにフォーミュラニッポン参戦のチャンスを頂き本当にありがとうございます。そして、ここまで合同テスト、レースウィークとマシンを仕上げてくださいました田中監督、勝智さん、大駅さん、メカニック、スタッフの皆さんありがとうございました。

今回のレースを通じて本当にたくさんのことを学びました。課題もたくさんあり、特にスタート直後のマシンコントロールをもっと的確に出来るようにしなければなりません。次戦の鈴鹿は体力が必要とされるためトレーニングを重ね準備したいと思います。

次回のレース・・・5月16, 17日 鈴鹿サーキット

塚越広大